

船橋市議会議員

(37歳)

みっはし

三橋さぶろう

議会活動報告



船橋市の奨学金

船橋市の奨学金について、第1回船橋市議会定例会で質問いたしました。以下要約を掲載いたします。

【質問者：三橋さぶろう】(要約)

厚生労働省の国民生活基礎調査のデータでは6人に1人は貧困家庭にあるとういことは広く知られるようになりました。経済状況が厳しくても学べるよう奨学金制度がありますが、日本の奨学金の9割は「貸与型」呼ばれる「貸付金」であり、返済しなくてはなりません。しかも貸与型奨学金の大半は利息が付くもので借金と同じです。

若い人がたくさん学んで成長し、社会に出て大いに活躍してもらいたいが、社会に出る時には「奨学金の返済」という重い足かせが付いている人が多いというのが現状です。

奨学金を利用した方の中には、思うように収入が得られず返済に苦しむ人もいます。また、結婚や出産に影響する場合や、住宅ローンが組むことができない人もいます。このような問題を防ぐためにも返済義務のない「給付型奨学金制度」を導入していくべきだと考えます。

船橋市にも奨学金制度がありますが、無利息なだけで返済義務のある貸与型の奨学金です。子どもの貧困が広がっている現状では船橋市も給付型の奨学金をはじめめるべきと考えますが、市はどのように考えているのか？

(裏面へ続く)

三橋さぶろう プロフィール

- 1978年 長野県木島平生まれ(37歳)
- 2002年 中央大学商学部卒業後
株式会社カネボウ勤務
江東区健康スポーツ公社勤務
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 2015年 船橋市議会議員選挙 当選
・文教委員会 ・広報委員会 ・民進党派
- 特 技: クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックボランティアスタッフ
2002年ソルトレイクシティ・パラリンピック日本代表コーチ
- 家族:妻、息子(3歳)

(前面から)

【答弁者：学校教育部長】(要約)

本市では給付型の奨学金を設けることよりも、現在行っている利子をつけない貸付型奨学金を広くご利用していただけるよう制度維持及び周知に努めてまいります。

【質問者：三橋さぶろう】(要約)

子どもたちが貧困から抜け出すためには教育は欠かせません。特に高校に進学して卒業しておかないと大学や短大、専門学校等に進めないだけでなく、就職できない場合もあります。就職しても賃金が低く貧困から抜け出せなくなります。ですから経済的に苦しくとも高校に進学・卒業できるように船橋市としてもしっかりとサポートするべきです。そこでお尋ねします。高等学校を対象とした市の奨学金を利用した人数は何名いたのでしょうか？また、高等学校を対象にした奨学金だけでも給付型奨学金にした方がよいと考えますが？

【答弁者：学校教育部長】(要約)

奨学金には月々の貸付の修学金と、入学資金の一部を貸付ける入学準備金があります。H24年度、修学金は48名中9名、入学準備金25名中6名。H25年度、修学金は59名中10名、入学準備金は26名中3名。H26年度、修学金は57名中7名、入学準備金は29名中5名が高校生。

奨学金については現在行っている貸付型奨学金を利用してもらえるよう維持・周知すると共に、県で高校生を対象に行っている奨学のための給付金制度の動向を注視し案内などに活かしたい。

【質問者：三橋さぶろう】(要約)

入学準備金は年3～6名。修学金で年6～10名。これを貸付でなくて給付にしても財政的に大きな負担にはならないと思いますので是非とも検討を。そしてもう1点。市の奨学金の申込み期間ですが、修学金貸付の申込み期間がとても短いです。申請受け付けはもっと柔軟にできないでしょうか？

【答弁者：学校教育部長】(要約)

規則において申請期間を設け、要件を満たすかなど審査し貸付者を決定しています。生活が急変したご家庭についてはお話を伺い、他制度が利用できないか関係機関と連絡を取りながらご案内に努めております。

ご意見・問合せ 〒274-0063 船橋市習志野台4-10-12 1階 (新京成線習志野駅から徒歩4分)

電話：047-402-2810 FAX：050-3488-3190

E-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp

HP: <http://mituhashisaburo.jp>

事務所にお越しの場合は、あらかじめご連絡いただくと助かります。